

CASBEE[®] 新築[簡易版]

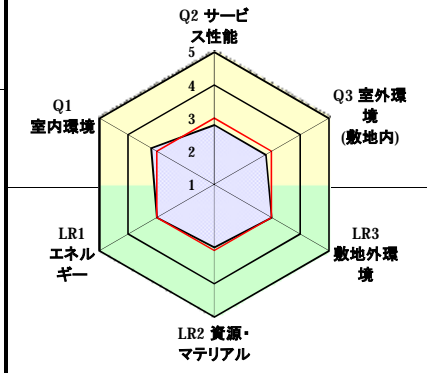
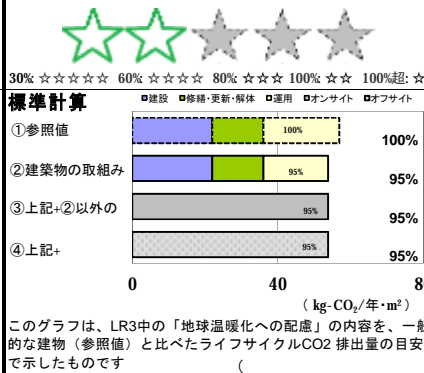
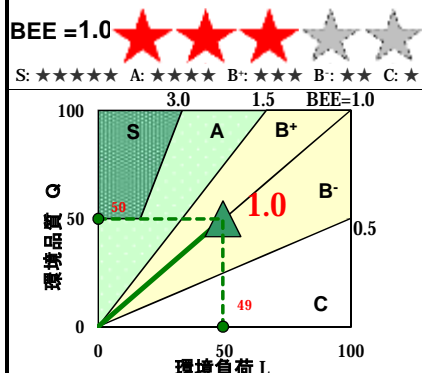
評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新築(簡易版) 2010年 大阪府版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010oskv1.4

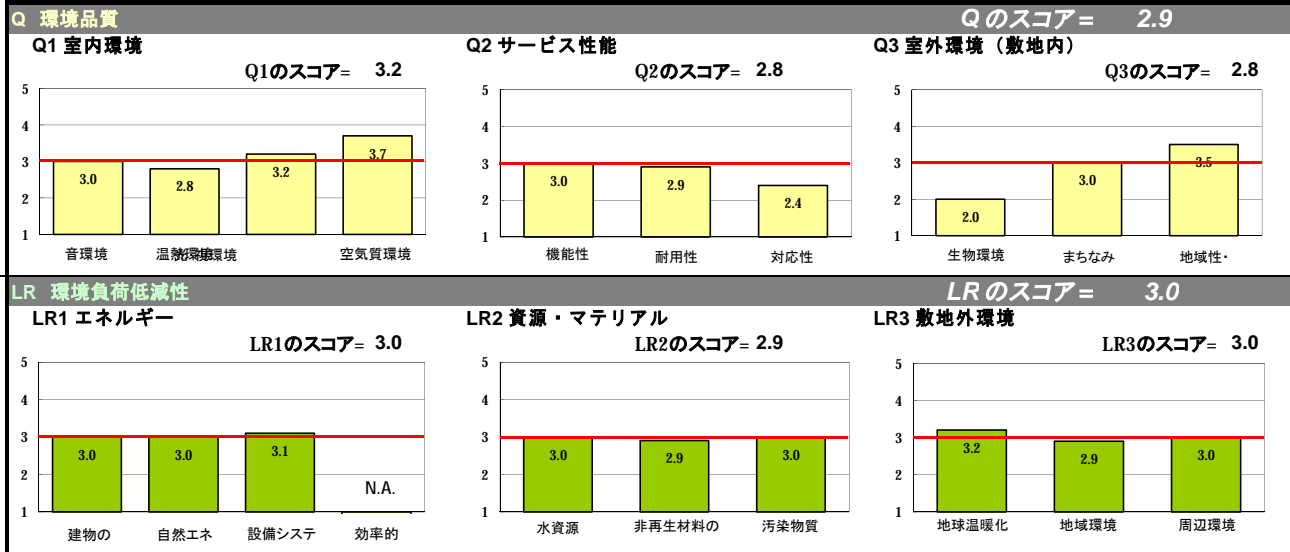
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エクセディ社宅新築工事	階数	地上7階建
建設地	寝屋川市大成町901-1の一部	構造	RC造
用途地域	準工業地域・準防火地域	平均居住人員	90人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年3月10日
敷地面積	1,800㎡	作成者	株式会社 前田組
建築面積	539㎡	確認日	2014年3月10日
延床面積	2,544㎡	確認者	株式会社 前田組



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
維持管理のしやすい建材や耐用年数の長い管材を採用することで、環境への配慮に努めている。	0
Q1 室内環境 屋光率は、共用部5.24%・宿泊部2.05%である。 内装材はF☆☆☆☆を全面的に使用している。	Q3 室外環境 (敷地内) ポーチ部分に庇を設け雨宿りに供する空間の確保をしている。 談話スペースを設置し、にぎわいの確保に貢献している。
LR1 エネルギー 品確法：等級3である。	LR2 資源・マテリアル GL工法を採用している。
	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ ：95%である。 建物利用者のための適切な量の自転車置場・駐車スペースの確保をしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存2010V1.03

【建物概要】	建物名称	(仮称)エクセディ社宅新築工事		
	建設地	寝屋川市大成町901-1の一部		
	用途/区分	集合住宅		
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+
	CO2削減			3
	省エネ対策			3
	みどり・ヒート アイランド対策			3
	エネルギー消費量の報告			対象外

【評価項目】				
省エネルギー対策		① CO2削減		
		② 省エネ対策		
項目	評価内容	スコア	評価	
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.2	3	
② 省エネ 対策	外皮性能	建物全体	1.0	3
		住戸・宿泊	3.0	
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価		
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	—	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	3.0	
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
項目	評価内容	スコア	評価	
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0		
その他				
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項		
特に配慮した事項				